

「のり」の輸入割当て公開抽選の立会人として

清水 正明 (埼玉 #47)

「のりの輸入を計画していますが、どんな手続きが必要でしょうか。(整理番号J-010221)」のタイトルの「ジェット口貿易・投資相談Q&A」に掲載されている「のり」は、近海魚、たらこ等とともに、輸入公表第一号、輸入割当品目(IQ品目)のうちの非自由化品目です。

私は、AIBA会員が「貿易・投資相談Q&A」の新規執筆や見直しワークをスタートした時から上記の「のりの輸入」を担当したので、「のり」の輸入発表の情報を得るために、毎年2月になると経済産業省貿易管理部農水産室へ出向いています。

2004年度は、2月上旬に次年度の「のり」の輸入発表があり、「貿易・投資相談Q&A」の原稿提出締め切りに十分間に合っていたが、2005年度は2月10日を過ぎても公表はなく、経産省農水産室でも発表時期は不明とのことであった。このために、見直し原稿が締め切りまでにJDP委員会へ提出できず、特別に期日延長をして頂いた。

従来からわが国の「のり」の輸入先は、韓国のみに限定されており、それ以外の国・地域からの輸入は、認められていなかった。

このわが国の「のり」IQ制度に対して、中国政府商務部は「のり」の輸入が制限されているのはWTO協定に違反するとして、04年4月から貿易障壁の調査に着手した。関係業界によると、中国の「のり」の生産数は、年間22億枚、そのうち約80%を米国等へ輸出し、価格は、わが国の4分の1程度といわれています。また、日本の年間生産数は、約100億枚とのことであり。因みに、「のり」1枚は、面積が430平方センチ以下のものという。

一方、韓国政府も、日本が「のり」の輸入量を制限しているのは、WTO協定に違反するとして、04年12月にWTOへ提訴した。

工業製品の輸出では強いが、農業の競争力が弱いという類似した産業構造のため、貿易自由化交渉で「共闘」し

てきた日韓両国が、初めてWTOの場で争うのかと注目された。日本政府は、中国の要望により中国関係者の来日を受け入れ、日本の「のり」生産状況や貿易制度を説明し、調査中止の方向を探った。

この中国との交渉と並行的に、韓国との多方面わたる交渉も行われ、わが国水産庁は、2月17日に「2005年度の「のり」の輸入割り当て枠を、2004年度より60%増やして、4億枚に拡大する」との方針を発表した。これは、輸入枠を大幅に増やして韓国の不満もかわし、WTO紛争処理小委員会を有利に運ぶ狙いと思われる。

この方針に従って経産省農水産室は、21日に「韓国に限っていた「のり」の原産地指定の撤廃と輸入割当数量は4億枚」と公表した。

同時に、割当て方式の一つであった先着順割当て(5千9百万枚)の申請手続きは、申請登録一連番号による「公開抽選方式」で申請順位を決め、上位の者から受け付ける方法に変わった。これは、申請者全てに均等な割当てのチャンスを与え、さらに申請者へ手続き上の便宜を図るものです。この公開抽選会は、3月28日に経産省本館で行われたが、経産省農水産室から私宛に、抽選会の立会人として依頼があった。

「のり」の輸入に情報面から係わるものの、「のり」の輸入ビジネスでは利害関係がなく、ミプロという公的機関のアドバイザーというのが、依頼の主な理由である

(予告)平成17年度AIBA定時会員総会・交流会

日時: 平成17年6月18日(土) 総会 13:00~
講演会 16:00~
交流会 18:00~

場所: 東京・日比谷
レストラン・キャッスル(イイノビル9F)

正式ご案内は各会員宛に文書で6月初めに会員名簿と一緒に届きます。多数お誘いあわせの上、ご参加くださるよう今からご予定願います。

Contents (目次)

P1...	「のり」の輸入割当て公開抽選の立会人として	清水 正明
P2...	WHATEVER IT CAN, IT WILL Good Communication makes Better Relationship.	永野 靖夫 古賀 昭弘

P3...	超大型航空機の話	寺尾 邦彦
P4...	旅は、楽しい 支部活動、首都圏地区勉強会	小河原 進
P5...	首都圏地区WTC関連講演会研究会	
P6...	アドバイザーの活動	
P7...	訃報、会員異動	
P8...	新入会員、退会会員、アドバイザーの現況、編集後記	

う。

農水産室の職員が準備した抽選会へは、3名の立会人と30名近い申請者が出席した。今回の申請登録者は（約八百数十名）とのことなので、800番台までの3桁数字を決定するわけである。

主な用具は、各桁ごとの数字を表すための0~9の番号のついた10個の抽選玉、それを無作為に取り出すためのビンゴゲーム機、玉が正しく選ばれていることを出席申請者に見てもらおう小型テレビシステムでした。

午前10時に職員が抽選方法を説明し、立会人の一人がビンゴ抽選機のテストを行い、私を含む2名の立会人は、10個の玉に正しく番号が刻印されていること、全部の玉が確実にビンゴ抽選機に入れられたことを確認し、間違いのない旨を申し述べた。

これが最初で、たぶん最後と思われる立会人の仕事に多少緊張したが、28回の球出しワーク（1位と10位の桁は各10回、100位の桁8回）は、スムーズに行われ、10分足らずで終わった。

立会人の最後の義務は、貼り紙に記された乱数表もどきの数字の群と、私が手元に記録した抽選玉の数字が全て一致するとの署名を行うことであった。

単純な先着順割当の申請方式が採用されていた頃は、申請当日の前夜からバスで一族郎党を引き連れて、一番乗りを目指す新規の輸入業者も多かったと聞いていたが、これに比べ今回の会場はまったく静寂であった。

しかし、次々に読み上げられる数字を見つめる申請登録者の眼差しは、真剣そのものであった。

この他の「のり」の輸入割当てには、実績割当て（5千2百万枚）、新規実績割当て（5百万枚）、輸出実績割当て（4千万枚）、需要者割当て（2億4千4百万枚）があり、コンピュータによる申請も可能です。

わが国の「のり」生産数の100億枚からは、輸入割当ての4億枚は、総生産数の4%にしか相当しないといえるが、公開抽選会の雰囲気からわが国の農水産界が持つ複雑な状況と、それに係わる農水産物の輸入業者の立場が、理解できたように思えた。

WHATEVER IT CAN, IT WILL

永野 靖夫（東京 #68）

今から25年程前、私は南アフリカに駐在していた。そしてある日、SUGAR REFINERY業界では著名なコンサルタント（A氏）と3時間ほど、同じ車で移動することになった。年恰好は今の私と同じ位、会ってみると、ごく温厚な紳士でした。

当時、私は仕事上、さまざまなタイプのコンサルタントと付き合いがあった。あるときは、彼等と組み、あるときは彼等とわたり合った。なかには25年後の私を髣髴とさせるようなおぼれ頂戴型から、A氏のごとく、鶴の一声でプロジェクトの方向を決めてしまうタイプまで、

千差万別であった。

さて、1時間ほど車中で仕事の打合せをすると、案の定、話の種が尽きてしまった。そこで、以前からいっていた疑問をA氏にぶつけてみることにした。即ち、コンサルタント業界には、ルールはあるのか、あれば一体どんなものなのか...と。

私の突然の質問に、A氏は最初戸惑った様子であったが、しばらく考えた後、次のように話し始めた。「この業界はせいぜい100人足らずだから、お互い家族も含めて、全部知っているよ。その結果、仲間意識が強いのも事実だね。強いてルールを挙げるとすれば、仲間の信頼を失うと、この業界にはいられないってことかな。このことは皆よく判っているよ」と。そして、一呼吸おいた後、「しかし、ミスター・ナガノ、“WHATEVER IT CAN, IT WILL（注）”だよ。」と言ったのを今でも覚えていません。

数年後私は帰国し、丸紅を辞め、その後数社を転々とした後、現在の職業に落ち着いた。この間、何度も思わぬ状況に出くわしたが、その都度この諺を思い出し、気を落ち着かせることができた。

今にして思うと、あのときが私の人生の折り返し点であったようでした。それにしても、25年があったという間に過ぎてしまった。これから先の25年は？、まあ、そんなに持たないだろうが、行けるところまでは行ってみたいと思っています。折り返せたのだから、後は“WHATEVER IT CAN, IT WILL”というところか。

注：HAPPENを補うと「起こり得ることは、いつかは起きる。転じて、何が起きてもおかしくない」となる。そこで、いろいろと動詞を補ってみると、「酒の肴」にぴったりの諺にも変身する。ヒントは？...私が考えそうなことはこの程度...としておこう。

Good Communication makes Better Relationship.

古賀 昭弘（東京 #139）

3月末の2日間、Association for Business Communicationのコンファレンスに出席しました。参加者は日本・世界各地から100名弱を数えました。60弱のセッションが開催され、参加者は5分間の休憩時間を利用して各セッション会場を移動します。この移動持間は、参加者にとってお互いのコミュニケーションを取るよい機会でした。

初日の昼食休憩時間には、茶菓のもてなしがあるとのことでした。お茶室で、わたしの右隣は韓国・明知大学で教鞭を執る韓国人のかたでした。そのかたに、亭主が話されている内容を説明させてもらいました。

初日の夜はレセプションが開催され、寿司、刺身、てんぷら、日本酒、ワインを食べたり飲んだりしてひと時をすごしたのです。

セッションの合間や昼食休憩時間に知り合った人たちとのレセプションにおける会話を通じて感じたのは、訪

日者の顔は昼間のセッション時に見せた顔とは違っているということです。日ごろ教壇で話し慣れているとはいえ、違う場で話すのは緊張するものなのでしょう。その緊張をほぐすために、日本側の大学の先生方がホスト役を務められたわけです。

レセプションでは、食べて飲んで済ませるのも一つの方法だと思いますが、わたしは、それだけでは物足りません。

南カリフォルニア大学のかたと挨拶した後、昔わたしが住んでいたロスアンジェルス思い出を糸口として、彼女と話しが弾みました。ダッカ大学のかたとは、硬軟取りまぜて話題が展開し笑いが尽きませんでした。茶室で隣り合わせた韓国のかたとは、茶室での話題から日本酒の話題へと話が展開しました。そのほか、春雨のなか「寒さをこらえている」というマレーシア女性、「韓国で半年滞在予定であったが、すでに15年が経過してしまった」という韓国文化研究のアメリカ人などなど、多数のかたがたと交流することが出来ました。

翌日、ダッカ大学と明知大学のかたがたのセッション後の休憩時間に、それぞれから、「日本人と知り合いになれてよかった」とお聞きして、大変嬉しく思いました。

better communicationを図ることはなかなか難しいと思いますが、good communicationに努めればbetter relationshipを図ることは可能だと考えています。

ビーチバレーでは「柵の上にそっとモノを載せるようにトスを上げることを教えられる」と聞いたことがあります。YOU ATTITUDEを意識して上げたトスは、より良いチームプレイを生むのだと思います。

たった二日間、限られた数の訪日者との交流でしたが、彼らにも「なにか良い思い出を残してくれたらありがたい」と思い、二日目の午後、別れの握手を交わしました。

超大型航空機の話

寺尾 邦彦（東京 #270）

ライト兄弟が動力付き有人飛行機の初飛行に成功してから100年余。航空機の開発・製造技術は長足の進歩を遂げ、今や航空機は国際間の旅客や物資の高速・大量輸送に不可欠の手段になっています。そこで、「超大型機」についての話題を2つ紹介します。

1. 「Spruce Goose」(お洒落な、木製のガチョウ) :

3月末に公開された映画「The Aviator」(アビエーター)をご覧になった方もおられると思いますが、これは20世紀の米国で、映画産業や航空事業などに多くの足跡を残した大富豪Howard Hughesが設計・開発・製造した巨大飛行艇「H-4 Hercules」のニックネームです。米国は第二次世界大戦中の1942年、大西洋をドイツの潜水艦Uボートの攻撃を避けて、兵員、戦車、物資を大量に早く輸送する必要に迫られたため、超大型飛行艇の建造がヒューズから提案されました。同機は翼幅約97m、垂直尾

翼高30m、機体全長約67m、エンジン8基、全重量136トンという史上空前の大きさで、戦時中の金属不足のため、機体の大部分は木製でした。米軍の予算1,800万ドル、要求工期3ヵ月(3機)でしたが、ヒューズの異常なまでの完璧主義のため、工期は大幅に遅れ、戦後の1947年に漸く1機のみが完成。「Goose」(間抜け)と揶揄されました。建造場所ロングビーチの沖で、ヒューズ自身が操縦桿を握り、高度26m、飛行距離1.6kmのテスト飛行に成功しましたが、その後、実用化されることなく、ロングビーチ港に長期間係留され、観光スポットになっていました。

小生、約20年前に同港を訪れた際に、往時の英豪華客船「Queen Mary号」と並んで展示されているのを見た記憶があります。現在はポートランド(オレゴン州)の航空博物館に移された由。

ヒューズは飛行機野郎として「より速く、より高く」に挑戦し続けた夢想家、旺盛な事業拡大欲、極度の神経症、奇行など、謎の多い人物といわれており、波乱万丈の人生の一端は、ディカプリオが好演している上記映画から伺われます。

2. エアバス社の新・超大型機A380(555席) :

欧州4カ国(英・仏・独・西)で構成されているエアバス社は、現在、米国のボーイング社と並ぶ世界的な航空機メーカーに成長しています。本年1月18日、同社のツールズ工場(仏)で、超大型民間機「A380」のお披露目が行われました。式典には仏シラク大統領のほか、英・独・西各国首脳やエアラインのトップほか関係者多数が出席し、米国の意識したプレゼンスが示されたと伝えられています。

同機は完全2階建て構造、標準555席(最大850人搭乗可能)、航続距離15,000kmの4発機で、競争相手ボーイングB-747ジャンボ機(400席、14,200km)を上回る世界最大の超大型旅客機(因みに、世界最大の貨物機はロシアのAn-225)です。試験飛行終了後、初号機は2006年にシンガポール航空に引渡される予定です。

現時点でのA380機の確定受注機数は15社から約150機(うち45機が産油国UAEのエミレーツ航空)。日本のエアラインは未発注です。莫大な開発費回収のための損益分岐点は250機といわれていますので、残りの100機、更にそれ以上の受注をどのように確保するのか、今後の推移が注目されます。同社は、経済成長の著しい中国を中心としたアジア・太平洋地域の需要に期待している模様ですが、果たして如何?

また、この超大型機の就航に伴い、空港滑走路の整備や、大量の乗降客をスムーズに受入・処理可能な空港設備等、インフラ整備が課題です。日本では、先日開港した名古屋の新空港「セントレア」が受入れOKだとPRしていますが、都心へのアクセス等も含めた総合的な検討も必要では?

なお、航空機の開発には、軍需・民需を問わず多額の先行投資や長期の時日を要するので、民間企業だけの負

担では自ずと限界があり、また国策的な見地からも政府助成が欠かせません。「航空機補助金」をめぐる、WTOへの提訴など、米国・EU間での駆け引きが続いています。

旅は、楽しい

小河原 進（埼玉 #344）

私事で誠に恐縮ですが、長女の伴侶が医科歯科からMGHへ転職になり、昨年 Boston に赴任した。又、長女も日本での医師稼業を中断して同行した。同地は学問の都でもあり、New England の中心となる古都でもあります。次女と小生は新しい環境や職場等の見物、且つ、残した荷物運びを兼ねて訪問した。Schedule が合わず、次女が先行し、最後の日を小生がラップする日程で、ともに制限数量一杯となる4個の荷物を携帯品として飛行機に持込んだ。かなり重量もありアップアップしながらの旅だった。小生はアメリカに入国するNew Ark 空港の税関荷物検査場にてレントゲン検査をさせられ、やっと荷物検査が終了したと感違いしてバッグに鍵をかけた。荷物検査は厳しくBoston 行きの飛行機に積載するときバッグの鍵を壊し、再度点検した様だった。アメリカの安全に対する取組みは異常とも思える位に真剣なのです。梱包材関連でも国際基準 No.15 が実施されましたが、これなども今後さらに厳しくなる懸念が強い。蛇足ですが、保険会社に事情を話したら、携行品破損で求償できるとのこと、また、購入店でも購入後、直ぐの事故であったので、無償で補修してくれた。ほっとした。

さて、Boston での日程は、主に、美術館巡りと大学構内の散策に充てた。学生時代、碌に勉強をしなかったので、大学構内を散策していると若き日の過ちが思い起こされ、一寸、気恥ずかしい思いが脳裏を過ぎった。人生2度やり直せることが出来ないのかとも勝手に夢に耽ったりもした。

美術館巡りは Museum of Fine Art , Harvard のFogg Art Museum ,Sackler Museum と Isabella Stewart Gardner Museum 等を巡った。それぞれ、特徴を持った美術館ですが、特に、Fogg Museum は素晴らしい。Picasso の青年期「青の時代」の作品「Mother and Child」が入り口越しに見える2階の通路など全くの余裕があり、これぞ真の美術館との感触を覚えさせてくれた。偶々、無料の土曜日だったが人影は少なく、存分に観賞出来た。知人が西洋美術館に関係していたので、「西洋美術の見方」の講演を伺ったり、同氏の著書を読んだ経験も一助になったのかも知れない。他に、Renoir 「Seated Bather」や Manet, Gogh, Gauguin, Cezanne 等の佳品がところ狭しに展示されているのは圧巻であった。

Fine Art では大作である Renoir 「Dance at Bougival」が特に目立った存在であった。この作品は現在行われている「愛知万博」を記念して名古屋で展示されていると

伺う。小生達年代の日本人は印象派系絵画に何となく惹きつけられる傾向があると思う。

美術館巡りは楽しい。「物語絵」を理解する知識が要求されることもあるが、実物を直に見ることは自分の鑑賞力向上に資し、何となく芸術を理解出来たと感じるからだ。これからも懐くあいと相談しながら、世界の美術館を見て歩きたい。また、外国での見聞は日本での生活に、この年になっても役立つことが多い。お仕事柄、外国に居住されたり、お出かけになられる方が多いと思う。機会を作って時間を有効に活用されることをお勧めします。

余談となるが、3連敗の後、4連勝をしてリーグ優勝、更に4連勝してワールド チャンピオンになった Boston Red Sox の本拠地 Fenway Park も外から見物した。改装工事中で中に入れて貰えなかった。昨年の試合は「諦めてはいけない」をまさに地でいくものとなった。ペーブルースが残した魂が宿っているのかとも感じた。開幕不振を跳ね飛ばして、連覇を期待したい。

それにしても、同地出身の大統領選でのケリー候補は最後の粘りが足りなかったのではないのか。

支部活動（2005年1月以降）

東海支部

平成17年2月12日 例会

（講演）「中国の貿易管理制度の概要とよくあるトラブル」

（講師）白土 茂雄氏（#474）

アジア・ロジスティック研究所代表

関西支部

平成17年3月12日 関西支部研修会

（講演）「中国の貿易管理制度の概要とよくあるトラブル」

（講師）白土 茂雄氏（#474）

アジア・ロジスティック研究所代表

財務省が1月に発表した平成16年度の貿易統計（通関ベース）によると対中貿易総額が20.1%を占め、それまで最大の貿易相手国であった米国を抜き1位になりました。

関西支部では昨年秋に発足した中国研究会へ多数のメンバーが参加され、現在の潮流である中国貿易が大変注目されており。

今回の講師はそのような右肩上がりの中国貿易のオーソリティである白土茂雄氏でした。1972年に三井物産に入社、物流を担当され1987年以降は中国関係業務に深く関わられました。

2002年に退職されてからはアジア・ロジスティック研究所を設立され中国ビジネスに取り組んでおられます。中国関係の著述出版書も多く、有名大学でのご講演など精力的にご活躍されており。

時節柄タイムリーな講演内容で書物だけでは知り得な

いような、トラブルの事例などをご説明され、リスクに対する対処方法など非常に興味深いものでした。

今回の研修会は非常に盛況で出席者も多く、席数が心配されたほどです。研修会終了後に恒例の懇親会がありメンバーの情報交換で非常に盛り上がりました。

弓場俊也（関西支部書記）

九州支部

九州支部は去る3月26日、鹿児島市で例会を開催しました。支部の会員数は現在22名ですが、管内で2番目に会員数の多い県で開催しましたが、年度末でしかも2-3日前に発生した福岡沖大地震の直後の開催となったため参加者は僅か6名に止まりました。しかし、来賓としてジェットロ鹿児島所長の大串寛氏、網谷AIBA専務理事をお迎えし、鹿児島市山下町のかごしま県民交流センターにて充実した時間を過ごすことができました。

会合では、まず鹿児島女子短期大学の大重会員（#18）から、「鹿児島県の貿易やビジネスの国際化の現状と課題」と題して講演を頂きました。具体的には、日本を取り巻く貿易環境の変化と鹿児島県の地域経済の状況、県内製品のグローバル化と近隣諸国との国際貿易実態並びに自由貿易協定（FTA）の可能性について言及したもので、昨年よりジェットロ鹿児島との密接な連携により県内数ヶ所にて発表された内容を、支部会員向けにダイジェストとして発表を頂いたものです。特に、鹿児島県企業の海外取引の実態に触れながら、韓国や中国等との輸出入物流などから域内自由貿易協定の可能性を探るもので、大重氏の平素の貴重な研究成果を披露して頂きました。

次いで、来賓として特別参加して頂いたジェットロ鹿児島の大串寛所長から、「鹿児島県の地場産業製品の輸出」という標題で、同県の農産物及びその関連製品の輸出について、その主な動き、特徴及び問題点についてお話を頂き、加えてジェットロとしての取組みや支援策、直近の企業動向などについて詳しい説明を頂きました。なかでも、有機緑茶の欧州向け輸出のために製茶企業が輸入国の有機認証を取得したこと、韓国ハウジングショーへの木材住宅を出展し好評を得たことなどは、輸出促進が叫ばれるなか非常に興味深い案件でした。

最後に、支部長からAIBAロゴマークの商標登録やJDP和文Q&A事業の終了など理事会を含めたAIBA全体の活動報告に続き、欠席会員の伝言と近況報告を行い、さらに1月31日に永眠された松本光保（佐賀：#172）会員の在りし日について、アドバイザー試験に合格された経緯と喜び、米国やベトナムなど海外見本市への参加談や九州支部設立時の英文パンフレット作成への積極的な協力など、ご家族からお聞きしたことなどを織り交ぜて紹介披露し、松本会員の冥福をお祈りしました。

参加者は大重、高榎、石丸、清田、塩田、西嶋でしたが、鹿児島市在住の会員のご協力で無事終了しました。

西嶋眞彌（九州支部長）

首都圏地区勉強会

平成17年1月22日（土）於：ジェットロ本部
講師：森岡 和博会員（千葉 #212）
テーマ：「最近の税関事後調査」
参加者：30名

平成17年2月26日（土）於：ジェットロ本部
講師：永野 靖夫会員（東京 #68）
テーマ：「職業としての貿易アドバイザー」
参加者：30名

平成17年3月19日（土）於：ジェットロ本部
講師：斉藤 利武氏（MAX & Co. 社長）
テーマ：「伊国MAX MARAグループの対日マーケティング戦略」
参加者：28名

平成17年4月23日（土）於：ジェットロ本部
講師：藤谷護人氏（弁護士）
テーマ：「個人情報保護とSECURITY」

首都圏地区WTC関連講演会研究会（平成17年1月～4月）

1. WTC講演会

- ・132回（1月19日）
「産官学連携による技術革新とベンチャー企業育成の促進」
アジア・米国技術経営研究センター所長
リチャード・ダッシャー博士
- ・133回（4月14日）
「北朝鮮・金正日体制の行方、日朝関係はどうあるべきか」
ジャーナリスト 萩原 遼氏

2. アジアクラブ月例講演会

- ・298回（3月10日）
「プッシュ政権2期目のアジア外交」
同志社大学助教授 村田 晃嗣氏
- ・299回（4月26日）
「EUによる対中国武器輸出禁輸措置解除の背景」
東京経済大学教授 中川 十郎氏
- ・アジアクラブ新春講演会
1月12日「米軍再編と日米安保」
拓殖大学教授 森本 敏氏

3. ACF講座

- ・28回（2月4日）
「ウズベキスタンの地域社会マツハラの実状と今後」
東京大学東洋文化研究所助教授 ティムール ダダバエフ氏
- ・29回（4月21日）
「日本の中央アジア政策の新展開

外務省欧州局アジア・コーカサス室長 道井 緑一郎氏

4. ラオスビジネスフォーラム講演会

3月4日「ラオスの挑戦 経済統合とメコン開発のコンテクスト」

鈴鹿国際大学長 鈴木 基義氏

5. アジア国別研究会

・15回(1月28日)

「中国の金融情報、株式情報、企業情報をより正確に知るために」

新華ファイナンスジャパン 社長 千葉 鴻儀氏

・16回(2月16日)

「大統領選後のインドネシア」

伊藤忠商事インドネシア代表 三嶋 憲太氏

・17回(3月14日)

「最近の中国における企業ブランド事情について」

パオス中国代表 王 超鷹氏

・18回(4月18日)

「シベリアの現況」

伊藤忠ビジネス戦略研究所所長 松村 滋弥氏

て」

場所：さいたま新都心2号館

3. 西嶋 眞彌(山口 #73)

平成17年3月14日

高知県農林水産部園芸流通課

「中国における野菜類の生産及び日本への輸入動向」

場所：高知県農業技術センター(南国市)

4. 渡辺 肇幸(千葉 #115)

平成17年2月8日

茨城県中小企業振興公社 貿易実務入門講座

場所：レイクビュー水戸

平成17年3月10日

茨城県中小企業振興公社 貿易実務入門講座

場所：土浦京成ホテル

5. 戸村 和民(山形 #200)

平成17年2月9日(水)

東根市商工会工業部会「工業の経営革新について」

場所：東根市商工会会議室

6. 大谷 巖(千葉 #224)

平成17年2月14日・17日

日本繊維輸入組合「貿易実務・実践編ケース・スタディ」

場所：東京・大阪

7. 鈴木 貞雄(静岡 #309)

平成17年2月17日

ジェトロ静岡、県中部地域SOHO推進協議会

「小口輸入ビジネス基礎講座」

場所：静岡市産業交流センター

平成17年2月01日、2月08日

ジェトロ静岡「貿易実務実践講座」

場所：富士商工会議所

8. 池崎 元彦(神奈川 #431)

平成17年1月18日・19日

青森県商工労働部・中小企業基盤整備機構他

「大連市のビジネス環境と貿易・投資の実際」(18日)

相談・アドバイス：個別貿易相談(19日)

場所：厚生年金会館ウエルシティ青森

平成17年1月27日

(財)しずおか産業創造機構・中小企業基盤整備機構他

「中国投資の考え方、進め方」(午後)

相談・アドバイス：個別投資相談(午前)

アドバイザーの活動

講演・講師

1. 清水 正明(埼玉 #47)

平成16年2月3日、4日

ジェトロ長野主催 国際ビジネス支援・貿易実務講座

「貿易の仕組みと流れ」

「輸出口ルールプレー(アドバイザー)」

場所：長野市 ホテル信濃路

平成16年2月18日

茨城県中小企業団体中央会、アイスリー協同組合 共催 組合員研修会

「貿易から見た国際情勢と異業種組合の方途」

場所：茨城県北浦町 アイスリー協組 北浦研修センター

平成17年2月22日、24日、3月3日、24日

さいたま商工会議所、国際経済交流企業組合共催

「小口輸入体験塾」

場所：さいたま市 さいたま商工会議所

平成17年3月8日

東京都目黒区役所、東京商工会議所目黒支部共催

「新しいツール“ビジネスのための小口輸入”のすべて」

場所：東京商工会議所 目黒支部

2. 永野 靖夫(東京 #68)

平成17年3月2日

関東農政局「輸出の進め方-農水産物を前提とし

場所：(社)静岡県国際経済振興会会議室

相談・アドバイス

1. 中川 善博(三重 #67)
平成17年1月20日 2月17日 3月17日
ジェトロ三重主催 巡回貿易相談
場所：伊勢商工会議所 松阪市産業振興センター
平成17年1月21日 2月18日 3月18日
ジェトロ三重主催 巡回貿易相談
場所：四日市商工会議所
平成17年2月4日 3月4日 4月1日
ジェトロ三重主催 巡回貿易相談
場所：四日市市 じばさん三重
平成17年2月28日
ジェトロ名古屋主催 貿易・投資相談
場所：ジェトロ名古屋
2. 野本 功司(東京 #76)
平成17年3月8~11日
日本能率協会
FOODEX2005(第30回国際食品・飲料展) ジェトロゾーン
海外出展者へのコンサルテーション業務
場所：幕張メッセ
3. 藤原 孝一(兵庫 #93)
平成17年2月22日
ジェトロ神戸・三木商工会議所主催「なんでも相談会」
場所：三木商工会議所
4. 黒沢 久司(青森 #191)
平成16年12月16日
青森県中小企業中央会『輸入相談会』
場所：青森県中小企業中央会
平成17年3月3日、4日
ジェトロ青森貿易情報センター『巡回輸入相談』
場所：弘前市民会館/ジェトロ青森貿易情報センター
5. 鈴木 貞雄(静岡 #309)
平成17年1月19日、3月02日
ジェトロ静岡「貿易相談会」
場所：ジェトロ静岡
6. 田中 尊雄(愛知 #406)
平成17年1月26日
ジェトロ名古屋主催 貿易相談
場所：ジェトロ名古屋
平成17年2月10日

豊橋商工会議所主催 なんでも相談

場所：豊橋商工会議所

平成17年3月23日

ジェトロ名古屋主催 貿易相談

場所：ジェトロ名古屋

埼玉県海外取引アドバイザー制度による貿易相談

1. 清水 正明(埼玉 #47)
平成17年2月25日(さいたま市)

執筆

1. 永野 靖夫(東京 #68)
平成17年2月7日
「輸入のすすめ方」第3版
日本貿易振興機構発行
2. 西嶋 眞彌(山口 #73)
平成17年2月15日
日本貿易振興機構「中国野菜の栽培状況と安全対策」
ジェトロセンサー2005 2月号

訃報

近時、2会員の訃報に接しました。茲に改めてご通知致すと共に故人のご冥福をお祈り申し上げます。

1. 故 森 征太 会員(静岡 #106)
平成16年9月20日逝去
2. 故 松本 光保 会員(佐賀 #172)
平成17年1月31日逝去

会員異動(2005年1月以後、敬称略)

個人情報保護の為、
削除しました。

- (#238) 柴田 洋二 (異業種従事)
 (#275) 小林 栄司 (資格喪失)
 (#318) 土井 克子 (資格喪失)
 (#471) 芝山 豊章 (異業種転職)

アドバイザーの現況(H17年4月20日現在)

アドバイザー総数：458名

AIBA会員総数：350名(参加率：76.4%)

第1期 62名(# 1~#118) 第6期 19名(#342~#368)
 第2期 33名(#119~#179) 第7期 53名(#369~#433)
 第3期 24名(#180~#215) 第8期 18名(#434~#453)
 第4期 37名(#216~#264) 第9期 26名(#454~#484)
 第5期 56名(#265~#341) 第10期 18名(#485~#504)
 第11期 4名(#505~#509)

うちAIBANETに310名加入(参加率：88.6%)

支部・地域別会員数

関東&周辺	203名	(58.0%)
北日本支部	15名	(4.3%)
東海支部	27名	(7.7%)
関西支部	59名	(16.9%)
中国四国支部	18名	(5.1%)
九州支部	21名	(6.0%)
海外駐在者*	7名	(2.0%)
合計	350名	(100.0%)

* 海外駐在会員(7名)(敬称略)

#163 福元雅英 (香港)	AIBANET加入
#234 小林公典 (豪州メルボルン)	加入
#253 日口正敏 (米国加州サクラメント)	加入
#290 北見義久 (UAE)	加入
#356 白川泰正 (インド)	加入
#385 中根昌孝 (中国深圳市)	加入
#459 荻田浩三 (米国NC州 ラレイ市)	加入

個人情報保護の為、
削除しました。

新入会員(2005年4月)

- (#201) 中澤 政雄 (なかざわ まさお、東京)
 (#505) 安達 俊雄 (あだち としお、福岡)
 (#507) 今銚 和宏 (いまほこ かずひろ、千葉)
 (#508) 柴田 篤 (しばた あつし、東京)
 (#509) 鈴木 忠幸 (すずき ただゆき、埼玉)

退会会員(2005年3月31日付)

- (#15) 梅宮 昭 (資格喪失)
 (#23) 梶田 協四郎 (資格喪失)
 (#54) 高橋 栄子 (資格喪失)
 (#56) 武内 晴義 (資格喪失)
 (#94) 文室 堯 (資格喪失)

< 編集後記 >

気候がめまぐるしく変わる。暖冬と思いきや、暫く寒気が居座り、櫻の開花予想が遅くなった。が、咲き始めから満開までの間に初夏並の陽気が入り込み、暖かさの影響が直ぐに満開となった。本年3月の企業決算は好調と報道が騒ぐ。4月から、いろいろな面で制度が変わるので、これから先の景況が読み難い。気候の様に乱変動しないこと期待したい。

今号から、新しいAIBAのロゴマークを標題に用いた。ロゴマークの意図することを、私達会員は追求しようではありませんか。さらに、皆さんから、ID用活用法の素晴らしいご提案をお待ちしたい。

(S.O)